

拝啓 9月も早や下旬、暑かった夏もようやく終わり、涼しい秋がやってきました。お変わりございませんか。いつもエンカウンターをお読みいただきありがとうございます。近所の公園では、きんもくせいのつぼみが大きくなっています。10月上旬には、甘い香りと共に金色の花が咲くことでしょう。

今月は、小西先生の「ローマ人への手紙講解説教」の第17回目、今月号で小西先生のロマ書講解の最終回になります。この第60講は、「ロマ書大観」と題し、2年間60回続いた講解のまとめです。小西先生は、5つの感想を述べられています。今まで何度も読んだ文章ですが、大切なところをエンカウンターに載せるために書き写しておりますと、ずしりと心に響きます。信仰は、小西先生の言われるように、理性や感情とは違う精神の働きであり、意思の働きであること、福音は知っている人から伝わること、復活の望みが日々の行ないの励ましになること、など心によく刻んでおきたいと思えます。

来月からは、石館守三先生の『はまなすの小道』から引用紹介致します。

9月20日、学士会の午餐会の講演会で、すばらしい話を聞きましたのでご紹介します。

長野県上田市に「無言館」という戦没画学生の美術館があるそうですが、その館長の窪島誠一郎さんという方の、東京生まれ東京育ちの自分が、長野県上田になぜ美術館を開くようになったかという話で、感銘深い話でした。

最後の5分で追加的に話されたお話しに大変感動致しました。

昭和20年5月鳥栖市の小学校に、若い兵士二人が、ピアノを弾かせてほしいと言って訪れたそうです。実は自分たちは、東京音楽学校でピアノを学んだ学生だが、飛行隊員としての訓練を受けているが、神風特攻隊員として召集がかかりこれから鹿児島県の知覧基地に向かう途中だ、途中汽車の中で鳥栖小学校に良いピアノが有るとい話を乗客から聞いたので、矢も盾もたまらず途中下車して、走ってやって来た、そのピアノを弾かせてほしい。若い音楽の先生が応対されて、ドイツ製のピアノを弾かせてあげることになった。楽譜がなにかありますか、ベートーベンの「月光」の楽譜があります、二人の兵士は、「月光」を1時間半、心行くまで弾いて、これで思い残すことはありません、有難うございました、とお礼を言って立ち去った。

その後40年経って、そのピアノが古くなって処分されようとしたとき、応対した音楽の先生がその特攻隊員2人の話を全校生徒の前で披露して、新聞に載ったそうです。鳥栖新聞で二人の特攻隊員の行方を探しました。一人は特攻出撃で戦死し、一人は飛行機の故障のため引き返し、今も生きることが分かった。ピアノは保存されることになり、新しいピアノのお披露目の会の時、生き残った特攻隊員が駆け付け、すばらしい演奏を披露した、という話でした。

窪島さんは、そういう感動の話は、後代へ伝えていかなければならない、そうでないとその伝達の輪が切れて後代へ伝わらない、と話されました。その話を聞きながら、私も、南原先生と小西先生のことを後代に伝える役割をさせて頂いており、そのための役割を果たしたいと思いました。それと、抽象的な話より、こういう具体的な話になぜ感動するのだろうか、と思いました。

講演をされた窪島さんは、作家の水上勉さんの御子息ということが、インターネットで分かり、なるほどと思いました。また、この特攻隊員の話は、小説にもなり、『月光』の夏」という題の映画にもなったそうです。

これから一年で一番良い気候に時期になりますが、どうぞ、お身体ご自愛のほど祈り申し上げます。

敬具

山口周三

平成 25 年 9 月 23 日

エンカウターの読者各位